

SPring-8 ユーザー協同体 (SPRUC) 第2期研究会組織最終提案書

2013年12月3日

SPRUC 利用委員長

SPRUC 企画委員会研究会組織検討作業部会

中川敦史 (大阪大学)

SPring-8 が 1997 年に供用を開始して以来、サイエンスや産業がより多様化しているのに合わせて SPring-8 のユーザーも多様化してきた。SPRUC は現在約 12,000 名の全 SPring-8 ユーザーが参加しており、利用者としての視点で意見の集約ができる学際的組織を目指している。SPRUC 会員によって組織された研究会は、SPring-8 のより効果的・効率的な利活用によって各研究分野の発展と測定技術の高度化に貢献するなどの役割を担う。しかし、現状の計 30 の研究会では全ユーザーの研究領域をカバーできておらず、ユーザーの約 75%は研究会に属していない。そのため、将来の放射光施設の高度化計画などに関するユーザー側の意見を汲み上げて施設管理者側（理研・JASRI）に提言するための機能が不十分である。さらに、研究会活動を SPring-8 内外へ積極的にアピールすることも求められている。そこで、次のような方策で研究会組織を再編する。

1.組織

1.1 研究会の所属分野設定の見直しと研究会関連ビームライン (BL) の明確化

SPRUC の研究会組織は、ユーザー側の意見を汲み上げて施設管理者側に提言すると同時に、各学協会そして社会に対する説明責任を強く意識しなければならない。すなわち、外部へアピールしやすく、外部からも見えやすい体制を再編するべきである。そこで、SPRUC 第2期研究会の設置にあたり、従来の9つの分野分けを見直し、下記の4分野を新規に設定する。

「生命科学 (Biomolecules)」

「物質基礎 (Fundamental Characterization)」

「物質応用 (Applied Materials)」

「計測 (Measurements)」

各研究会は新組織では少なくとも一つの分野への所属を選択する。また、研究会の複数分野の選択も可能とし分野横断的な研究会に対応させる。4分野の領域の定義と名称は、既存の研究会名が研究対象と研究手法の2種類があることを考慮した。

研究分野と BL の設定が SPRUC 研究会の足腰となるので、研究会を申請するときは、対象とする研究分野と関連するすべての BL 名を明記する。そして、申請された研究分野と BL 名を基に、図1のように、各研究分野を縦軸、BL を横軸とした構成図を作成する。こ

うすることによって各 BL で展開されている研究が明確化し、ポテンシャルユーザーからも理解しやすくなる。

1.2 分野融合型“研究グループ”の設定

研究会活動の活性化のために、課題解決型の研究テーマもしくはキーワードを設定し、研究会・BLでの手法・分野を融合した研究グループを時限付きで創設する。SPring-8の利用により発展が見込まれる研究分野を重点的に支援し、SPRUC研究グループのアクティビティを外部に向けて積極的に発信する。テーマの設定は、融合する複数の研究分野に精通した有識者からなる研究会顧問が立案する。

2.研究会、研究グループの申請

研究分野とBLによって構成される研究会については、2年ごとに設置申請を行う。既存の各研究会に所属する1研究会あたり400名～100名程度の研究会員の持続的な研究会登録を維持するために、廃止する研究会については、会員の受け入れ先を、廃止する研究会代表、利用委員会、研究会顧問の協議により決定する。

分野融合型研究グループは、融合する複数の研究分野に精通した有識者（研究会顧問）の案を受け利用委員会にて代表者を決定し設置する。グループへの参加は、個々のユーザーが申請する。

3.研究会の責務と評価について

研究会が負う具体的な責務を下記に示す。

- ・SPring-8の高度な利活用により研究成果を最大化する
- ・ポテンシャルユーザー獲得のために学協会にて成果を発信する
- ・毎年、将来の放射光施設の高度化計画などに関するユーザー側の意見を汲み上げ、関連BLに対して高度化要求を提出する
- ・JASRIからの受託業務である研究会会員の動向調査を実施する

これらの遂行状況については年一回、研究会顧問より評価を受ける。評価の結果は次年度の活動支援計画に反映させる。

以上

図1 組織図

- ・研究グループは「生命科学」「物質基礎」「物質応用」「計測」の4つの分野の少なくとも1つに所属
- ・全ユーザーが参照できるようにいくつか研究会を新設
- ・戦略的なキーワードに沿った活動計画を募集し、時限付きで分野融合型の研究会グループを結成

